

SPECIFICATIONS

	D-3300T	KT-1100D	KT-1010F	KT-880F
(FM部)				
受信周波数範囲	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス	75Ω不平衡	75Ω不平衡	75Ω不平衡	75Ω不平衡
感度 DISTANCE(75Ω)	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf
DIRECT(75Ω)	10μV/31.2dBf	10μV/31.2dBf	10μV/31.2dBf	
SN比50dB感度				
DISTANCE(MONO)	1.8μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf
DISTANCE(STEREO)	24μV/38.8dBf	24μV/38.8dBf	24μV/38.8dBf	24μV/38.8dBf
DIRECT(MONO)	18μV/36.3dBf	18μV/36.3dBf	18μV/36.3dBf	
DIRECT(STEREO)	240μV/58.8dBf	240μV/58.8dBf	240μV/58.8dBf	
高調波ひずみ率				
WIDE(MONO)				
100Hz	0.006%	0.007%	0.008%	0.02%
1kHz	0.004%	0.005%	0.0055%	0.006%
50Hz~10kHz	0.009%	0.01%	0.02%	0.02%
WIDE(STEREO)				
100Hz	0.009%	0.01%	0.01%	0.04%
1kHz	0.007%	0.008%	0.0085%	0.009%
50Hz~10kHz	0.03%	0.03%	0.1%	0.1%
NARROW(MONO)				
100Hz	0.02%	0.05%	0.05%	
1kHz	0.01%	0.04%	0.04%	
50Hz~10kHz	0.02%	0.1%	0.15%	
NARROW(STEREO)				
100Hz	0.03%	0.06%	0.1%	
1kHz	0.02%	0.05%	0.1%	
50Hz~10kHz	0.1%	0.3%	0.3%	
SN比(100%変調85dBf入力)				
(MONO)	100dB	100dB	99dB	98dB
(STEREO)	92dB	92dB	91dB	88dB
キャプチャーレシオ(NARROW)	2.0dB	2.5dB	2.5dB	1.5dB
実効選択度(IHF)(WIDE)	70dB	70dB	70dB	60dB
(NARROW)	100dB	100dB	90dB	

	D-3300T	KT-1100D	KT-1010F	KT-880F
ステレオ・セパレーション				
WIDE 1kHz	71dB	70dB	70dB	68dB
50Hz~10kHz	60dB	55dB	50dB	43dB
15kHz	50dB	45dB	40dB	38dB
NARROW 1kHz	60dB	55dB	50dB	
50Hz~10kHz	50dB	45dB	40dB	
15kHz	45dB	40dB	36dB	
周波数特性 20Hz~15kHz	±0.5dB	±0.5dB	±0.5dB	+0.2dB -0.8dB
イメージ妨害比 84MHz	90dB	90dB	90dB	90dB
IF妨害比 84MHz	110dB	110dB	110dB	100dB
スプリング妨害比 84MHz	100dB	100dB	100dB	100dB
AM抑圧比 65.2dBf	70dB	70dB	65dB	65dB
サブキャリア抑圧比	75dB	70dB	70dB	70dB
出力レベルおよび出力インピーダンス				
FM 1kHz 100%変調 固定出力	0.6V/2.3kΩ	0.6V/1.7kΩ	0.6V/3.3kΩ	0.6V/3.3kΩ
可変	1.2V/1.0kΩ			
マルチバス出力 垂直出力	0.05V/10kΩ			
水平出力	0.6V/10kΩ			
(AM部)				
受信周波数範囲		531kHz~1602kHz	531kHz~1602kHz	531kHz~1602kHz
感度		10μV・250μV/m	10μV・250μV/m	10μV・300μV/m
高調波ひずみ率(1000Hz-WIDE)		0.3%	0.4%	0.3%
(1000Hz-NARROW)		0.6%	0.8%	
イメージ妨害比(1000kHz)		40dB	40dB	40dB
IF妨害比(1000kHz)		60dB	50dB	50dB
選択度(IHF)(WIDE)		30dB	25dB	25dB
(NARROW)		50dB	50dB	
出力レベルおよび出力インピーダンス		0.12V/1.7kΩ	0.18V/3.3kΩ	0.18V/3.3kΩ
SN比(30%変調1mV入力)		55dB	52dB	50dB
(電源部その他)				
電源電圧・電源周波数	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づき表示)	20W	18W	14W	10W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	475×88.5×327	440×88×331	440×64×319	440×67×319
重量	6.0kg	4.6kg	3.5kg	3.3kg

KENWOOD

PENTACLE CIRCUIT & 4D-SYSTEM
SUPER SYNTHESIZER TUNER

D-3300T/KT-1100D/KT-1010F/KT-880F



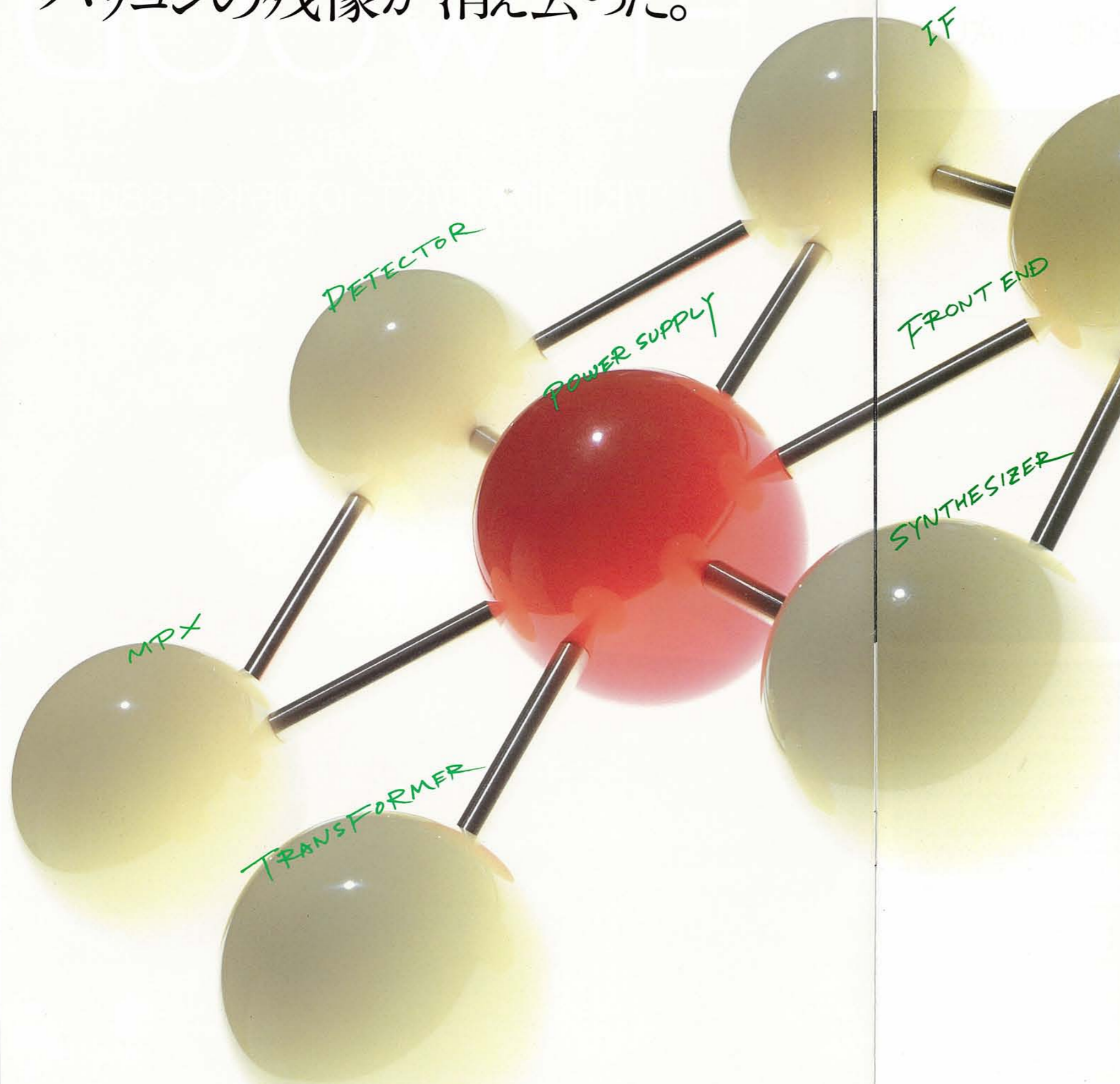
●お買上げは信用あるお店で

株式会社ケンウッド(〒150)東京都渋谷区渋谷2の17の5(シオノギ渋谷ビル)●丸の内ショールーム 東京都千代田区丸の内3の4の1新国際ビル ☎(03)213-8775●カタログの内容についてのお問い合わせは、お近くの加盟特約店にご相談ください。もし販売店でおわかりにならないときは、ケンウッドお客様相談室へ ☎(03)486-5515 ●定額・意匠は改善のため、予告なく変更することがあります。●チューナーの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年です。●保証書は所定事項の記入の有無をご確認のうえ、お受けください。

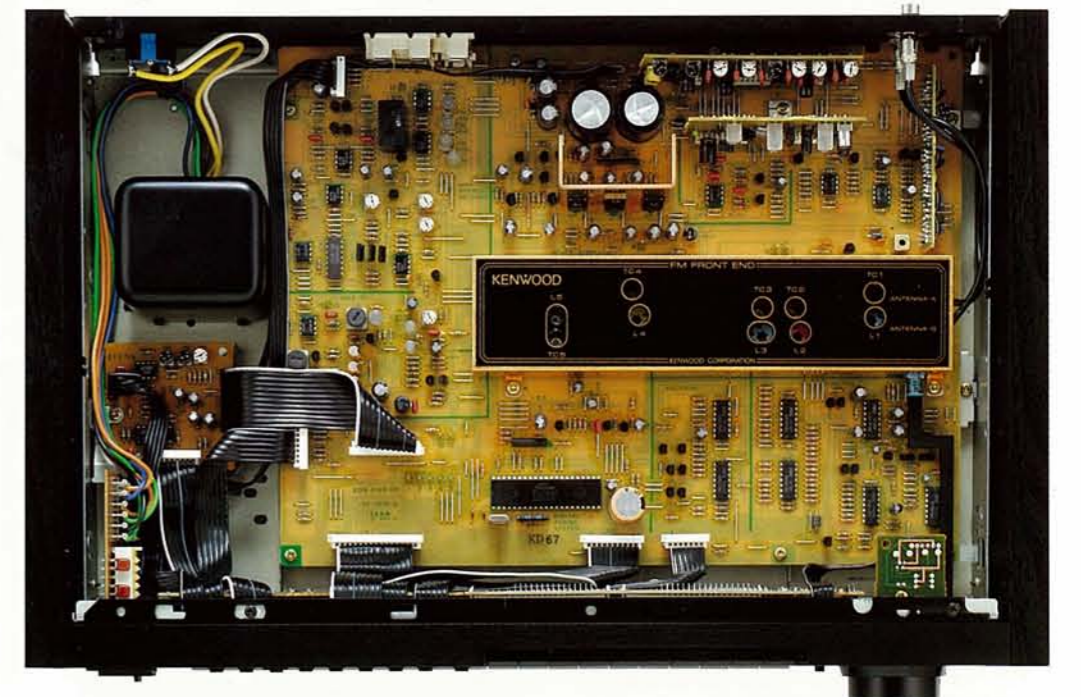
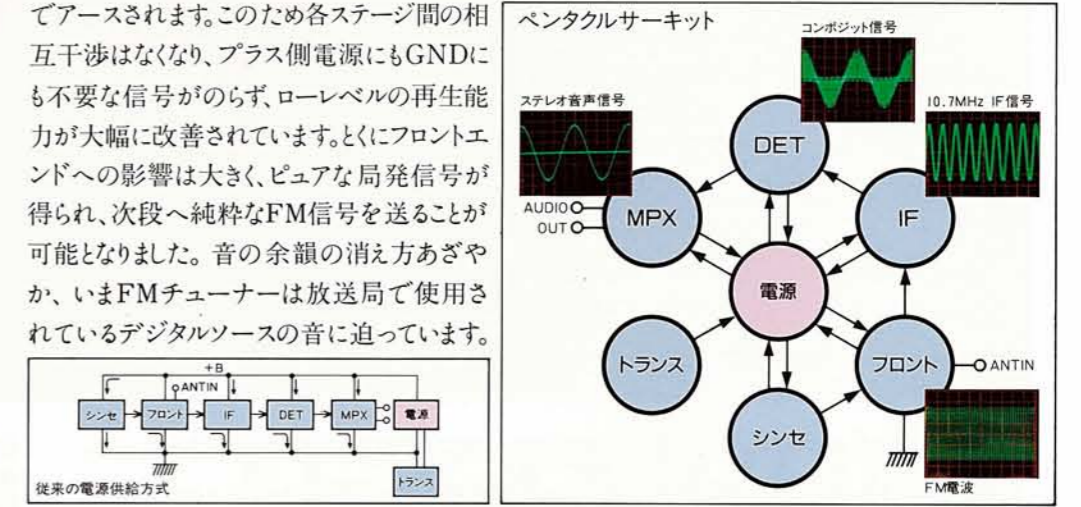
KENWOOD CORPORATION

AHA-M003 発行年月日:昭和61年11月19日 SE30 初版

バリコンの残像が消え去った。



●フロントエンドのDLRC(ダイレクト・リニアレセプション・サーキット)、IF部のDCC(ディストーション・コレクティング・サーキット)、FM検波部のDLLD(ダイレクト・リニア・ループ・ディテクター)、MPX部のDPD(ダイレクト・ピュア・デコーダー)。ケンウッドの4Dシステムの完成により、チューナーの諸性能はSN比100dB(76MHz~90dB.MONO)、選択度70dB(WIDE)を確保しながらひずみ率0.005%(MONO 1kHz)、ステレオセパレーション70dB(1kHz)と飛躍的に改善されています。しかしまだチューナーはインピーダンスの高い音、いい換えるといかにもチューナーらしい音がするといわれてきました。●この大きな原因は、シンセサイザーチューナーになってもアナログチューナーの内部レイアウトをそのまま踏襲していたところにあります。というのも、アナログチューナーには選局のためのバリコンが大きな形状で存在し、しかもフロントエンドの近くに置かなければならなかったため、レイアウト上の大きな制約となっていました。そのうえ、バリコンの必要のないシンセサイザーチューナーとなっても、高周波の飛びの問題などがクリアできず、内部レイアウトを変更することはタブー視されていたのです。●従来の内部レイアウトを再検討してみると、信号のGNDと電源のGNDが共用され、電源も電源GNDも各サーキットに付属接続され、電源からもっとも遠いフロントエンド部でアースされるようになっていました。●しかし、ひとつの波形を扱っているアンプなどと比べて、チューナーは各ブロックごとにまったく違った複雑な波形を扱っています。この異質な波形に対して電源を共通に使っては、プラス側電源、GNDともに各種の信号が混在することになり、音質が劣化するのも当然といえます。●ケンウッドでは、回路デザイン、アースポイントの考え方、高周波アンプの安定度など、チューナーの抱える問題点を高度な技術でクリアしたうえで、よりオーディオ的な思想により、新方式のペンタクルサーキットを開発しました。●このペンタクルサーキットは、電源を中心として各ステージを配し、電源とステージを最短経路でつなごうというものです。プラス側電源とGNDは各ステージと最短結合されると同時に、信号系のGNDは各ステージごとに電源GNDと別に処理されてフロントエンドの一点でアースされます。このため各ステージ間の相互干渉はなくなり、プラス側電源にもGNDにも不要な信号がのらず、ローレベルの再生能力が大幅に改善されています。とくにフロントエンドへの影響は大きく、ピュアな局発信号が得られ、次段へ純粋なFM信号を送ることが可能となりました。音の余韻の消え方ややか、いまFMチューナーは放送局で使用されているデジタルソースの音に迫っています。



伝送空間を意識させないCDの音。
デジタルソース放送時の情報量の多さを聴いて欲しい。



放送局からリスニングルームまで…難題を抱える伝送空間の壁を乗り越えて、オーディオソースとしての完成度を示すチューナーがD-3300T。4Dシステムにより基本性能を充実。そのうえで電源と各ステージを最短距離で結ぶペンタクルサーキットを完成。いまチューナーはアナログ時代のバリコンの残像を消し去って、真のオーディオ機器の道を歩み始めました。デジタルソースの情報量の多さを正確に伝えます。

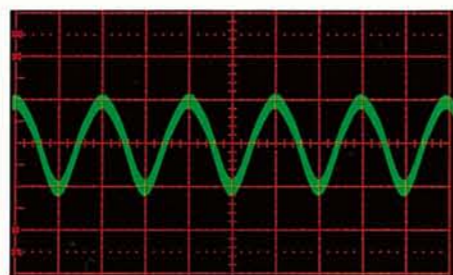
主要な部分に豪華パーツを採用

電源部に音質重視の大型トランスと大容量ケミコン、銅製放熱板、またフロントエンドのシールドカバーも銅製のものを採用するなど、グレードの高いパーツ類をふんだんに使って音を磨いています。

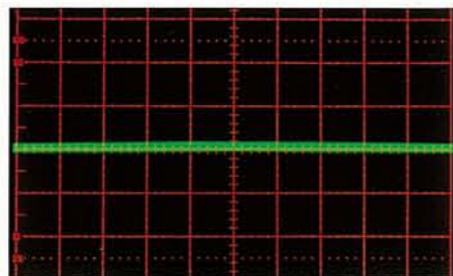


よりオーディオ的発想により完成されたペンタクルサーキット

チューナーは各ブロック毎にまったく違った複雑な波形を扱っています。この異なる波形に対して従来のように電源を共通に使ってはい、プラス側電源、GNDともに

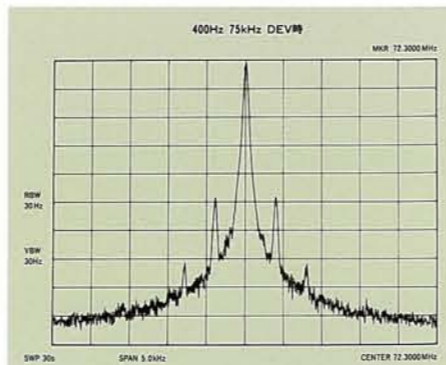


局発信号のユレ(従来のチューナー)

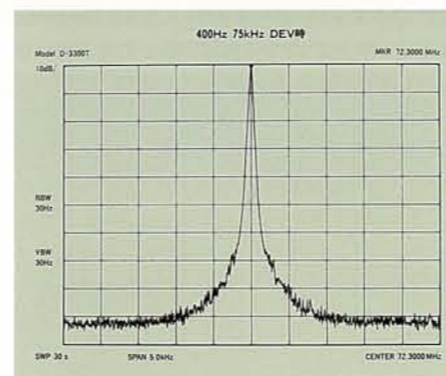


局発信号のユレ(ペンタクルサーキット)

各種の信号が混在することになり、音質が劣化するのも当然だったといえます。とくにフロントエンドは、いままでのレイアウトでは電源ともっとも離れていて、それぞれ異なる信号を扱う各ステージから電源を受け渡されてくるため、共通インピーダンスをもたされて大きく変調させられていました。このため70MHz前後の高い周波数を発振する局発振回路の出力は余分なスペクトラムをもってしまい、IF信号に変換された後のFM信号を大きく劣化させていました。●ケンウッドでは、電源を中心として各ステージを配し、電源とステージを最短距離でつなぐペンタクルサーキットを完成。電源を介しての各ステージ間の干渉がなくなる同時に、フロントエンドの局発振回路からの発振信号は余分なスペクトラムを持たない



局発信号のスペクトラム(従来のチューナー)



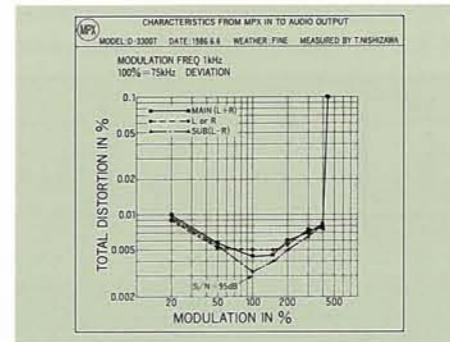
局発信号のスペクトラム(ペンタクルサーキット)

ビュアな周波数となり、忠実なIF信号をつくりだすことができ、次段以降へ純粋なFM信号を送ることが可能となりました。さらに電源から各ステージまでの信号経路も大幅に短縮され、FMの音はさらに純度を高めます。

400%過変調にも耐える広ダイナミックレンジのステレオMPX部とオーディオアンプ部

検波部の後に設置されるステレオ復調部と、それに続くオーディオアンプ部は、オーディオ信号のクオリティを直接決定づける重要な部分です。D-3300Tでは、このMPX部を含めたオーディオ信号系に徹底した低ひずみ化、低雑音化、広ダイナミック化を計りました。MPX部のダイレクト・ビュアデコーダーには新しい原理に基づくアナログ乗算器を起用、さらにアンプ系には低雑音、高FT

高スルーレートのオペアンプを多用。MPX以後単体として、100%変調時SN比95dB、対過変調耐性400%、ダイナミックレンジ107dBをクリア。FM信号のクオリティを大幅にアップしています。



MPXからオーディオ出力までの総合特性

FMチューナーのベースをガッチリと抑えたケンウッドの4Dシステム
ケンウッドではフロントエンドのDLRC、IF増幅部の

DCC、FM検波部のDLLD、ステレオ復調部のDPDと独自の4Dシステムにより、FMチューナーのベースとなる基本性能をガッチリ抑えています。D-3300TのWIDEポジションの性能は、2信号選択度70dBをとりながらひずみ率0.004%(MONO 1kHz) 0.007%(STEREO 1kHz)、SN比100dB(76MHz~90MHz) 92dB(STEREO)、ステレオセパレーション87dB(1kHz) 60dB(50Hz~10kHz)と充実。さらにペンタクルサーキットを搭載して、放送局で使用されるCDやPCMなどのデジタル機器と肩を並べるクオリティの高い音を得ています。

- あらゆる受信地域で高音質受信を可能としたRFセレクター
- 先進のマルチディメンション・チューニング
- エアチェックミスを許さないRECキャリブレーション&モジュレーション・レベルメーター
- 16曲プリセット
- 留守録に便利な3局プログラム機構
- FM多局化に対応したアンテナA/B切換
- IF・WIDE/NARROW切換
- オートチューニング機構
- 遠距離受信に有効なオートクワイティング&マニュアルクワイティング機構。

D-3300T(B) BLACK

PENTACLE CIRCUIT & 4D-SYSTEM SUPER SYNTHESIZER
FM STEREO TUNER ¥140,000

音に真価を発揮します。
ペンタクルサーキット搭載の4Dチューナー。



ケンウッド独自の4Dシステムにより、フロントエンドからMPX部まで、FMチューナーの各ブロックを磨きあげ、2信号選択度特性をはじめSN比、ひずみ率、チャンネルセパレーションなどの基本性能を充実。そのうえで電源と各ステージを最短距離で結ぶという、よりオーディオ思想の新レイアウト=ペンタクルサーキットを完成。放送局とラインで直結したといいたいほど、高鮮度の音を聴かせます。

選択度70dB、ひずみ率0.005% (MONO・1kHz)、SN比100dB (76~90MHz・MONO)、セパレーション70dB
基本性能を充実した4Dシステム

ケンウッド独自の4Dシステムを搭載。フロントエンドはダイレクト・リアレセプション・サーキット、相互変調を抑えて76MHz~90MHzのFM全受信帯域でSN比100dB

(MONO)、92dB (STEREO)を実現。つづいてIF増幅部はディスターション・コレクティング・サーキット、WIDEポジションでも2信号選択度70dBを得ながらひずみ率0.005% (MONO・1kHz)、0.008% (STEREO・1kHz)とクリアな音を奏でます。検波部はダイレクト・リアループ・ディテクター、VCOの非直線ひずみやIFフィルターで

発生するひずみまでゼロにしようという、まったく新しい検波方式です。そしてステレオ復調回路がダイレクト・ピュア・デコーダー。70dB (WIDE・1kHz)、55dB (WIDE・50Hz~10kHz)の高セパレーションで、ひずみのないステレオ信号を得ています。

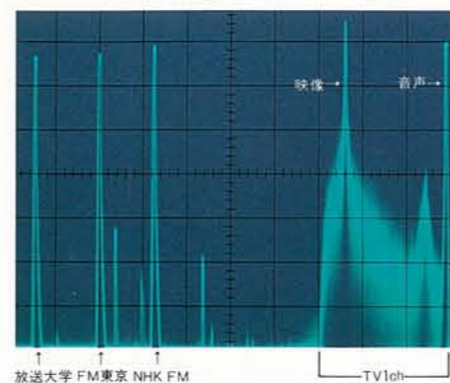
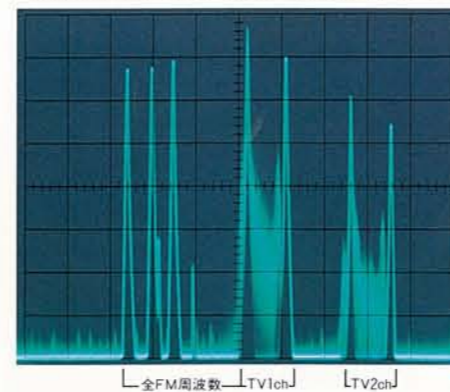
よりオーディオ的発想から生まれたペンタクルサーキット

回路デザイン、アースポイントの考え方、高周波アンプの安定度など、チューナーの抱える問題点を高度な技術でクリアしたうえで、よりオーディオ的発想から完成された新レイアウトがペンタクルサーキットです。電源と各ステージが最短距離で直結されるため、電源を介しての各ステージ間の干渉はなくなり、ローレベルの再生能力が大幅に改善されています。とくにフロントエンドの局部発振回路からの発振信号は余分なスペクトラムを持たず、ピュアな周波数となり、次段以降へ純粋なFM信号を伝送することが可能になりました。

テレビ局からの干渉を排除した受信特性にすぐれたフロントエンド

FM各局間の相互変調を抑えることは、FMの音質改善の大きなファクターとなりますが、フィールドにはFM局以上に影響力の大きな電波が存在します。それはテレビ、FMが76MHz~90MHzと全受信帯域で14MHzであるのに比べて、TVは1チャンネルだけでも5MHzを越える広い周波数帯域を持っていて、電波のエネルギー

も映像を送る必要上、FM局をはるかに上廻っています。とくに東京地区ではNHK総合TVが90MHz~96MHz

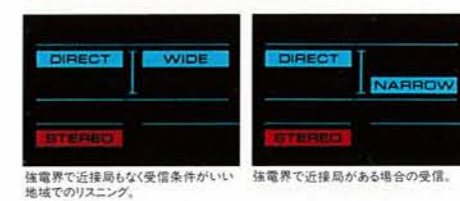


KT-1100D(B) BLACK

PENTACLE CIRCUIT & 4D-SYSTEM SUPER SYNTHESIZER
FM/AM STEREO TUNER ¥74,800

とFM帯域のアップリミットに密着して存在して、FM局に大きな影響を与えています。ケンウッドはこの現象に以前から注目、独自のFM技術でテレビ局からの悪影響やRFを使ったビデオ出力からの悪影響を排除しています。あらゆる受信地域で高音質受信を可能としたRFセレクター/IF切換

強電界ではダイレクト、弱電界ではディスタンスを切り換え。近接した大出力の局がある場合でも、RF相互変調や混変調などの妨害を抑えて、SN比にすぐれた高品位な音を引きだします。IF帯域WIDE/NARROW切換と組合せれば、あらゆる地域でクオリティの高い音が受信できます。



強電界で近接局もなく受信条件がいい地域でのリスニング。 強電界で近接局がある場合の受信。



遠距離で(弱電界)受信状態のいいとき。 遠距離で(弱電界)受信状態の悪いとき。

チップ部品を採用したIF部、DCC部、検波部。



抵抗磁気コンデンサー、FET、ダイオードにチップ部品を採用。総合干渉を抑えると同時に高周波の飛びなどの不安定要素をとりのぞきました。
●先進のマルチディメンション・チューニング ●エアチェックミスを許さないRECキャリブレーター & モジュレーション・レベルメーター ●ランダム16曲プリセット機構とオートチューニング (FM) 機構 ●留守録に便利な3曲プログラム機構 ●AM帯域コントロール



実効選択度70dB(WIDE)、ひずみ率0.0055%(モノ1k Hz)、SN比99dB…
民放2局時代に実力を問います。



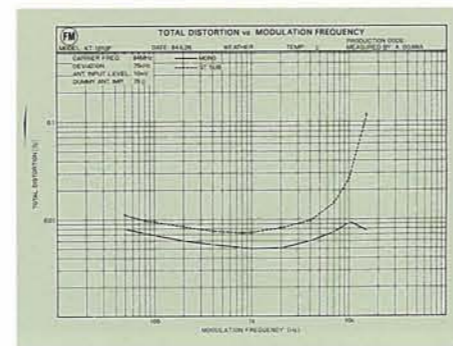
ケンウッドの4Dシステムをフル搭載。受信全帯域で99dBの高SN比を得ると同時に、選択度70dB(WIDE)・90dB(NARROW)、ステレオひずみ率は0.008%(WIDE 1kHz)、モノラルは0.0055%(WIDE1kHz)と圧倒的。チューナーとしての受信特性を充実させ、そのうえでオーディオ特性を改善するという、オーソドックスなチューナー技術が創りあげた、まさに「FMのケンウッド」の逸品。

相互変調を抑えたダイレクト・リニアレセプション・シンセサイザー

FMはオーディオソースとしての魅力にあふれた音質にすぐれた電波なのですが、多局時代になるとその性質上、チューナーとしてしっかりと設計しておかないと、さまざまな妨害が表われて、希望局の音がセズンしまったり、ひどいときには聴きとれない事態さえ発生してしまいます。その端的な例が相互

変調(IM)妨害。2局の電波が影響し合っ、とんでもない周波数にユウレイ局ともいべき妨害信号を発生させる現象です。たとえば81.9MHzと82.5MHzにFM局があり、83.2MHzに希望局があると仮定します。フロントエンドのIM性能が悪いチューナーでは81.9MHzと82.5MHzの局が相互変調を起こして83.1MHzに妨害波を発生させます。この妨害波は83.2MHz

の希望局と100kHzしか離れていないのと、そのうっかり広いスペクトル(帯域)をもっているため、IFの選択度特性をナローにしても影響は逃がれられず、音質を大幅に劣化させてしまいます。さらに希望局に相当する83.2MHzに無変調のオーディオ信号を入れて相互変調妨害の影響の大きさを測定してみると、ノイズレベルが全体にあがると同時に、700kHzも離れたB局の影響が400Hzと800Hz(2次ひずみ)に大きく現われていることがわかります。そこでケンウッドではダイレクト・リニアレセプション・シンセサイザー方式を開発。フロントエンドのIM特性を改善して相互変調を抑え、ノイズレベルを大幅に下げたことにより、受信全帯域で98dBの高SN比を実現しています。**ひずみ率0.0055%の低ひずみ率**
ディストーション・コレクティング・サーキット



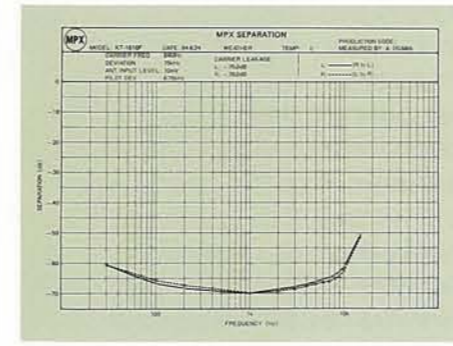
ひずみ率対変調周波数特性

KT-1010Fではディストーション・コレクティング・サーキットを採用し、セラミックフィルターで発生するヒズミを補正。70dBという従来ではナロー特性ともいえる急峻な選択度を保持しながら0.0055%(モノ1kHz)0.0095%(ステレオ1kHz)の低ひずみ率を得ています。さらに大出力に近接した局や、遠距離局を受信したいときには、選択度90dBのナローバンドで受信することができます。

高セパレーション70dB

ダイレクト・ビュアデコーダー

KT-1010Fにはダイレクト・ビュアデコーダーを採用、妨害つよステレオ復調を可能としています。このためクリーンレセプションフィルターなどのローパスフィルターを信号ラインに入れる必要がなくなり、70dBの高セパレーションを維持したまま、クリアなステレオ信号が得られます。



セパレーション特性

KT-1010F(B) BLACK

4D-SYSTEM SUPER SYNTHESIZER
FM/AM STEREO TUNER ¥59,800

低ひずみの広帯域直線検波

ダイレクト・リニアレセプション・ディテクター

IFでのひずみ率を抑えても、FM復調でひずみが発生しては、オーバーオールでのひずみの改善はできません。KT-1010Fでは検波器単体で0.003%、SN比104dB以上というすぐれた性能のダイレクト・リニアレセプション・ディテクターを採用。直線検波を実現してトータルのひずみ率0.0055%(モノ1kHz)の低ひずみ率を得ています。

RFセレクター

KT-1010Fでは、強電界で大出力局をクリアに受信するDIRECTモードと、小出力局を高感度に受信するDISTANCEモードの切り換えを設置。IF帯域WIDE/NARROW切替と併用すればあらゆる受信エリアで鮮明な音を受信できます。

先進のマルチディメンション・チューニング

正同調までのプロセスをビジュアルで伝えるマルチディメンション・チューニング。スタティック点灯方式のため、ノイズの発生を抑え、再生音に悪影響を与えません。



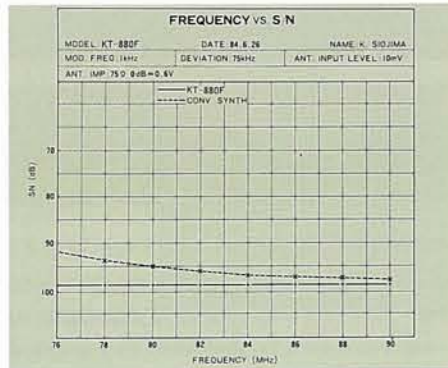
- IF帯域2段切替 ●遠距離局を高SN比で受信できるオートクワイティングとマニュアルクワイティング・コントロール ●レックキャリブレーション ●AMIF連続可変コントロール ●オートチューニング時のストップレベル切替 ●留守録に便利な3局プログラム機能 ●ランダム16局選局

全帯域SN比98dB、ひずみ率0.006%(モノ1kHz)・・・ 3局プログラム機能搭載のケンウッド。



RF部からMPX部まで、オーバーオールで磨きあげて、すぐれたFMチューナーが誕生する。ケンウッドは独自の4Dシステムを搭載して、全帯域SN比98dB、選択度60dB、ひずみ率0.006%と基本性能を充実。さらにランダム16局プリセット機構、レックキャリブレーション、プログラム機能3局と使いやすさも徹底追求。民放2局時代を迎えて実力を発揮するチューナーです。

全国のFM放送局と高SN比98dBで直結する
ダイレクト・リアレセプション・サーキット
シンセサイザーチューナーは、水晶精度で局部発振周波数と基準記号を位相比較しているため、一定した周波数を得ることができるといわれます。しかし水晶時計も温度変化などによって狂いができるように、あくまでも机上

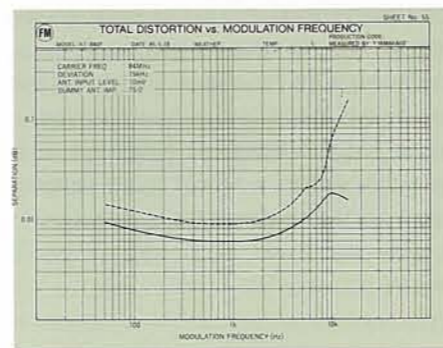


周波数対SN比特性

の理論であって実際にはありません。このようなシンセサイザーの微妙な狂いが、90MHzでは高SN比を得ているチューナーでも、76MHzのように低い周波数になると低SN比のチューナーにレベルダウンしてしまうという現象を引き起こしていました。この現象を排除して、76.1MHzのエフエム福井、エフエム岩手から80.0MHzのFM東京など、全受信帯域を98dBの高SN比で楽しめるようにしたのがKT-880Fのダイレクト・リアレセプション・サーキット。FM多局化によって次つぎに新設される全国のFM放送局をクリアな音で受信できます。

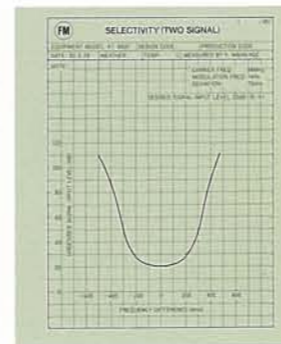
IFひずみ補正回路

ディストーション・コレクティング・サーキット
希望局と近くにある局とで発生する混信やビートなどが音質に与える影響は、ひずみ率やSN比などのレベルをはるかに越えた大きなもので、オーディオ・チューナーの歴史は、いかに隣接局妨害を抑えるかの歴史であったかといっても過言ではありません。この隣接局の妨害を排除するのがIFフィルターです。そして理想的な妨害排



ひずみ率対変調周波数特性

除能力を備えたフィルターは、希望局だけをキャッチするために、必然的に帯域の狭い、急峻な特性をもつものになります。しかし、理想的な選択度をもつフィルターは、オーディオ的に考えると高調波ひずみ成分を多分に内蔵したのもあります。ここに受信特性とオーディオ特性を両立し難いチューナー最大のネックがありました。ケンウッドはまず影響の大きな隣接局



2信号選択度特性

妨害を排除するために理想フィルターに近い急峻なフィルターを使い、2信号選択度を60dBと充実しています。そのうえでひずみの改善にのりだしました。IFフィルターで発生するひずみは可聴全帯域にわたって、とくに6kHz~9kHzでのひずみの劣化は激しいものがありました。新開発のIFひずみ補正回路は、IFフィルターで発生した高調波ひずみ成分だけを抽出して、キャンセル。ひずみ率も0.006%(WIDE モノ1kHz)と激減できたわけです。

新開発の広帯域直線検波

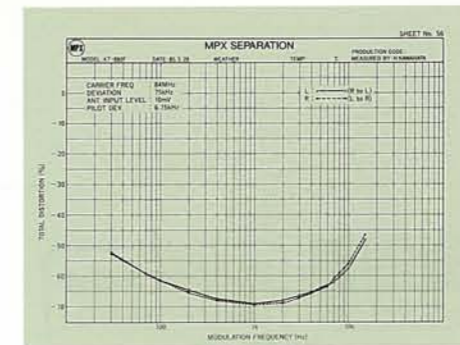
ダイレクト・リアループ・ディテクター

選択度60dBで、しかもSN比98dB(モノ)、ひずみ率0.006%(モノ1kHz)、受信特性とオーディオ特性を両立させた新開発のダイレクト・リアループ・ディテクター。10.7MHzのIF信号をダイレクトにリア化して、閉ループ検波器で検波。さらに閉ループ内にひずみ補正回路を設けて、VCOの非直線ひずみやIFフィルターで発生するひずみもゼロにしようという、まったく新しい検波方式です。またDLLDは閉ループ検波器ですので、ループ内で発生するノイズは抑えられ、きわめて高いSN比の検波器となります。いってみれば、DLLDはパルスカウンターの直線性をそのまま生かした高SN比検波器です。

妨害に強いステレオ復調を実現したDPD・MPX
KT-880Fには新開発のDPD(ダイレクト・ピュア・デコーダー)MPXを採用。従来の方形波でスイッチングするのと違って、38kHz以外の成分をまったく持たない純粹

KT-880F(B) BLACK

4D-SYSTEM SUPER SYNTHESIZER
FM/AM STEREO TUNER ¥45,000



MPXセパレーション特性

な正弦波で検波出力と掛算する方式をとっているため、クリーンレセプション・フィルターなどのローパスフィルターを必要とせず、聴きやすい混信妨害を排除。
大入力特性にすぐれたフロントエンド
チューナーのすべての特性の土台となるのが受信特性です。KT-880FではRF増幅部とMPX部にデュアルゲートMOS・FETを採用し、大入力特性の象徴的な相互

変調特性を大幅に改善。FM帯の電波だけでなく、テレビ電波が同時に、強烈に飛び込んできても相互変調妨害は発生せず、FM帯でのSN比の劣化もありません。
ランダム16局プリセット機構と
オートチューニング(FM)機構
プリセットメモリーはFM、AMランダムに16局、好きな局がワンタッチで呼びだせます。その他の局を聴きたいときもオートチューニングで(FMのみ)ワンタッチ選局。

留守録に便利な3局プログラム機能

タイマーと連動して、AM10:00~AM11:00FM東京、PM1:00~PM2:00NHK・FM、AM1:00~AM2:00横浜FMというように3つの放送局を留守録することができます。留守録でテープライブラリーを充実してください。
レックキャリブレーション
エアチェック時にレベルセッティングに時間をくって、好きな番組が始まってしまいます。そこでKT-880Fには100%変調時に-6dBというレックキャリブレーションを設置。最適な録音レベルを簡単にセッティングできます。